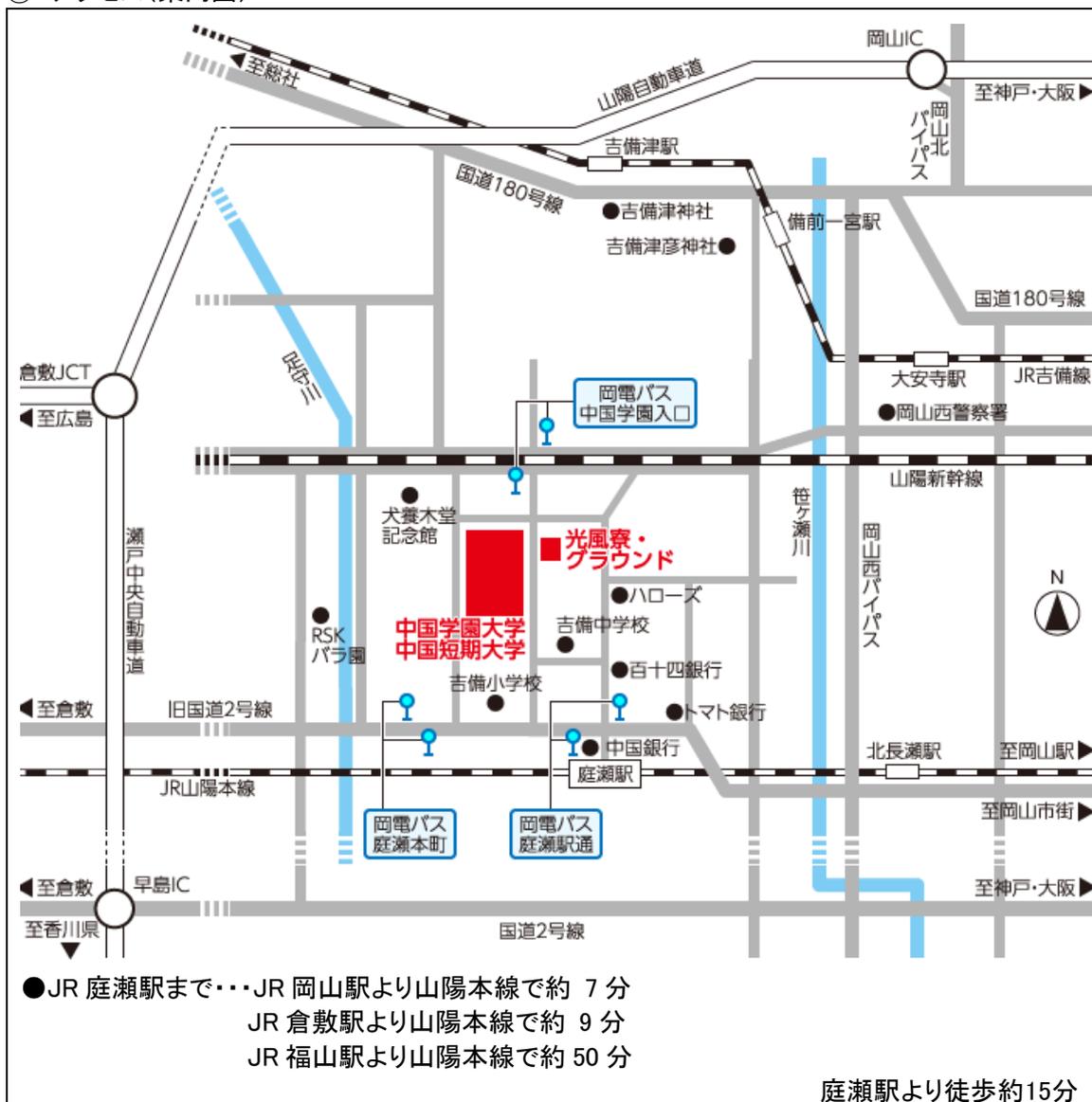


(14) 中国学園大学

① 開講期間・試験期間・授業時間

開講期間	前期	2026年4月9日	～	2026年7月30日
	後期	2026年9月25日	～	2027年1月28日
試験期間	前期	2026年7月31日	～	2026年8月6日
	後期	2027年1月29日	～	2026年2月5日
授業時間	1限	9:20	～	10:50
	2限	11:00	～	12:30
	3限	13:10	～	14:40
	4限	14:50	～	16:20
	5限	16:30	～	18:00

② アクセス(案内図)



③ 担当窓口

<p>教学・アドミッション課</p>	
所在地	<p>岡山市北区庭瀬 83 本館 2 階 事務局 教学・アドミッション課</p> 
電話	086-293-0542

④ 開講大学から単位互換履修生への連絡事項

・ 履修申込期限

本学では、申込期限は前期:4月2日(木)まで、後期:9月16日(水)までとします。
 ※所属大学によって、提出期間が別に定められている場合は、その指示に従ってください。

・ 履修手続

所属大学の窓口にて所定の期間内に単位互換履修願(写真添付)を提出してください。

対面授業科目を履修する方

初回授業で来学の際に以下の印刷物等を配付します。また、講義室の場所等の説明も行いますので、初回は時間の余裕を持って教学・アドミッション課窓口まで来てください。

- ① 学生便覧
- ② 授業時間割表
- ③ シラバス(該当科目)
- ④ 学生証(単位互換履修生証)
- ⑤ 図書館案内

・ 施設利用

中国学園大学在学の学生と同じ扱いとします。図書館・学食等が利用可能です。
 図書館の利用方法は、図書館カウンターで、単位互換履修生証と所属大学の学生証を提示してお尋ねください。

・ 特記事項

⑤ 各科目のシラバス

大学ホームページ シラバス掲載URL

<https://www.cjc.ac.jp/campuslife/syllabus.html>
 (中国学園大学・中国短期大学HP →Web シラバス)

・対面授業科目

対面授業		14001	
授業科目名:フードコーディネート論		担当教員氏名: 山崎 真未	
Food Coordinate			
1～4年次	2単位	前期	1コマ
<p>【授業の目的】 授業概要:フードコーディネーターとは、『新しい食の「ブランド」「トレンド」を作る, 食の「開発」「出演」「運営」のクリエイター』と定義されている。そこで本講義では, 料理を提供する場面で快適な食事ができるための料理・メニュー・食卓・食空間を含めた食(フード)のコーディネートについて講義する。</p> <p>【到達目標】 本講義では, レストランやファストフードをはじめとする外食産業のオープニングからメニュープランニング, ビジネス展開の計画まで, さらに, 料理を盛り付ける食器や, テーブルクロス, 照明や色彩など快適な食空間をトータルにコーディネートできる力を身につける。 なお, 本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち, <知識・理解><態度>の修得に貢献する。</p>			
<p>【授業内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. フードコーディネートとは 2. 文化(食文化)「食の歴史と文化と風土」～日本料理～ 3. 文化(食文化)「食の歴史と文化と風土」～歴と旬～ 4. 文化(食文化)「食の歴史と文化と風土」～外国の食事～ 5. 文化(食文化)「食の歴史と文化と風土」～食品・食材の知識～ 6. 科学(健康と栄養と安全)～厨房の基礎知識～ 7. デザイン・アート(食環境デザインと芸術的創造性)～食空間のあり方と内装デザイン～ 8. デザイン・アート(食環境デザインと芸術的創造性)～照明計画～ 9. デザイン・アート(食環境デザインと芸術的創造性)～食空間とテーブルコーディネート(洋食)～ 10. デザイン・アート(食環境デザインと芸術的創造性)～食空間とテーブルコーディネート(和食)～ 11. デザイン・アート(食環境デザインと芸術的創造性)～食空間とテーブルコーディネート(中国料理)～ 12. デザイン・アート(食環境デザインと芸術的創造性)～カラーコーディネート～ 13. デザイン・アート(食環境デザインと芸術的創造性)～テーブルマナーとサービス～ 14. 経済・経営(経済的概念と食関連事業経営実務)～フードマネジメント～ 15. 経済・経営(経済的概念と食関連事業経営実務)～食の企画・構成・演出の流れ～ 			
<p>【テキスト】 書名:新・フードコーディネーター教本／著者名:特定非営利活動法人日本フードコーディネーター協会／出版社:柴田書店</p>			
<p>【参考図書】</p>			
<p>【成績評価の方法】下記の成績を基準に評価する。</p> <p>・定期試験(100%) 最終的な理解度を評価する。</p>			

対面授業				14002
授業科目名:食生活論			担当教員氏名: 藤原 三保子	
Food and Health				
1～4年次	2単位	前期	1コマ	
<p>【授業の目的】 授業概要: 栄養・食に関わる専門職(管理栄養士・栄養士・栄養教諭 等)になるための専門教科を学修するに先立ち、人間にとって「食生活」とは何かを包括的に捉え考えるための入門編の科目である。食の成り立ち、食と環境の関わり、食文化、健康的な食生活、食育の推進について等を講義する。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食生活の歴史や文化と共に現状の課題について理解できるようになる。 ・食育の推進を担う食の専門家として、今後の食文化の形成に関わっていることを理解できるようになる。 ・自身の食生活に興味・関心をもち見直し、より健康的な食生活を営む知識と能力を身に付けることができるようになる。 ・食の専門家を目指す学生として、食育の推進について理解し考えることができるようになる。 <p>なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。</p>				
<p>【授業内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 食生活の概念 食生活の概念を知り、理解する。 2. 世界の食生活史(1)DVD「食の文明と未来」 世界の食生活史について知り、理解する。 3. 世界の食生活史(2)DVD「日本と世界の食文化」/日本の食生活史 日本と世界の食文化について知り、理解する。 4. 日本の食文化(1)DVD「かつおだし」 和食のうま味について知り、理解する。 5. 味覚・うま味の科学 DVD「おいしさの科学 味覚研究の最先端2・3」 味覚・おいしさについて知り、理解する。 6. 日本の食文化(2) 日本の食文化、お茶の伝来について理解する。 7. 日本の食生活の変遷(1) 近現代における日本の食生活の変化について知り、理解する。 8. 食生活と安全(1) 環境と食の安全について知り、理解する。 9. 日本の食生活の変遷(2) 日本の学校給食の歴史、世界の学校給食、栄養教諭の創設と学校給食法について知り、理解する。 10. ライフステージに応じた食育(1)妊娠前～授乳期・乳児期・幼児期 それぞれのライフステージに応じた食育の指針について知り、理解する。 11. 食生活と安全(2)食物アレルギー 食の現代的な諸課題を知り、理解を深め考えることができる。 12. ライフステージに応じた食育(2)学童期～高齢期 学校教育と食育、朝食の大切さを知り、食生活を考えることができる。 13. ライフステージに応じた食育(3)壮年期 DVD「やさしい栄養学 健康と栄養」 生活習慣病の特徴について知り、壮年期の食生活と健康のつながりについて理解を深める。 14. ライフステージに応じた食育(4)高齢期 高齢期の健康について考える。 これからの食育(1)災害時に向けた食育とSDGS 災害時に備える食の意識を高め、栄養士としての知識を深める。 15. これからの食育(2)情報化社会における食育 まとめ 食の専門家である栄養士を目指す者として、これからの食育の推進について考える。 				

【テキスト】

書名:食文化論／食育・食生活論(栄養科学シリーズ NEXT 食べ物と健康)／
著者名:濱口郁枝・富田圭子・小野真実 編／出版社:講談社

【参考図書】

【成績評価の方法】下記の成績を基準に評価する。

- ・**授業への取り組みの姿勢／態度(10%)**
意欲的な受講態度, 発表
- ・**定期試験(60%)**
最終的な理解度を評価する。
- ・**その他(30%)**
提出物

対面授業			14003		
授業科目名:心理学			担当教員氏名: 國田 祥子		
Psychology					
1～4年次	2単位	前期	1コマ		
<p>【授業の目的】 授業概要:この授業では、心理学全般の基本的な知識、心理学理論による人間理解とその技法の基礎について解説する。</p> <p>【到達目標】 クリティカルシンキングやクリエイティブシンキングなどの心理学的思考法を身につけることを目的とする。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。</p> <p>【授業内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学とは 「不思議」とされる現象を題材に、人の心のしくみについて長年研究を積み重ねてきた心理学の概要を紹介する。 2. 予知体験の不思議 「予知」「予言」と呼ばれる現象はなぜ起こるのか、推論のプロセスから解説する。 3. 記憶の不思議 「存在しない記憶」を確信を持って思い出してしまうのはなぜ？ 不思議な記憶のメカニズムについて解説する。 4. 影響されるころ 意見や態度は変容するものである。しかし「影響されやすい」状況やその特徴を知っておくことは重要かもしれない。 5. 揺れうごくころ 感情が私たちの生活の中でどのような働きをするのか、悪徳商法や、心身に良いとされるものを例に考える。 6. 検査で「自分」がわかるのか ネットや雑誌などで目にする「心理テスト」はあてになる？ 本物の「心理検査」「パーソナリティ測定」とは。 7. 占い・新宗教がもつ現代的意味 占いなどのスピリチュアルな世界に魅力を感じる人は多い。その心理を、背景にある悩みや迷いから紐解いていく。 8. 中間のまとめ 第1回～第7回の内容を振り返り、理解を確認する。 9. 子どもから見た現実と想像の世界 さっきまで鬼を怖がって逃げていた子が、今度は鬼の面を付けて「鬼さん」に変身！子どもたちが世界をどう捉えているのか考える。 10. 「もしかして……」と揺れ動く心の発達 「本当はいない」と分かっているのに「いるかもしれない」と思うオバケへの恐怖。想像と現実を行き来する子どもの心を考える。 11. 不思議現象に立ち向かう子どもたち 子どもたちは想像の世界に積極的に立ち向かうことで、現実を探求するように。「科学する心」の始まりを解説する。 12. 脳とこころの不思議な世界 「金縛り」や「幻覚」はなぜ起こるのか。脳神経系の生理的変化から説明できる心の活動について解説する。 13. 科学的に検証するとはどういうことか 目に見えない「心」の存在やその活動を科学的に捉えるには、厳密な実験計画と統計的検定が重要。 14. 心理学を学ぶ人のために 分かりやすくもないし簡単でもない、意外と地味な心理学だからこそ学べる「面白さ」。 					

15. 期末のまとめ

第 9 回～第 14 回の内容を振り返り, 理解を確認する。

【テキスト】

【参考図書】

書名: 不思議現象 なぜ信じるのか こころの科学入門／著者名: 菊地 聡・谷口高士・宮元博章(編著)／出版社: 北大路書房

書名: 不思議現象 子どもの心と教育／著者名: 菊地 聡・木下孝司(編著)／出版社: 北大路書房

【成績評価の方法】下記の成績を基準に評価する。

・定期試験(100%)

理解度を評価する。

対面授業				14004
授業科目名:自然科学概論			担当教員氏名: 清水 憲志	
Introduction to Natural Sciences				
1～4年次	2単位	前期	1コマ	
<p>【授業の目的】 授業概要: 私たちの日常の関わりの中から, 自然を概観する授業を行う。ネイチャーゲームを中心としながら, 自然の意義, 価値を捉えなおす。その気づきを言語化・可視化する中で日本ならではの季節に起因する自然の豊かさを知る。</p> <p>【到達目標】 私たちの身のまわり, 日常の中にある自然に対する向き合い方や捉え方等を再考することを目指す。なお, 本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち, <知識・理解>の修得に貢献する。</p> <p>【授業内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自然案内人とは ネイチャーゲームを体験してみよう。 2. 身近な自然を見つけよう 大学内を散策して, 色々な不思議に気づこう。 3. 泥団子を作ってみよう 泥団子を作って楽しもう。 4. 泥団子を極めよう 泥団子の理論を理解して, 実践してみよう。 5. 視覚を塞いで気づく世界とは 視覚を使わずに過ごすことで, 感じられるものを体験してみよう。 6. 自然物を使って遊ぶことで, 細やかな気づきを意識しよう 落ち葉や石を使いながら, それぞれの良さに気づこう。 7. 自然を色々な形で味わい表現してみよう 自然の音を感じたり, その日ならではの景色を描いたりして身近な場所から再発見しよう。 8. 自然環境と子どもの育ち 自然について理解し, 子どもの育ちに与える影響を理解する。 9. 自分と似ている自然とは? 自分を自然に例えることで, 自然を身近に捉えよう。 10. 自然から感じたことを言語化しよう 自然から感じたことをありのままに表現すると共に他者の言葉を受けいれて感性を広げる。 11. 自然物の特徴に気付こう 触感や視覚を頼りに色々な特徴に気づこう。 12. オリジナルノーズを描こう 自分だけのノーズを使って, 自然への知識を深めよう。 13. 色水遊びをしてみよう 多様な色が持つ不思議を再現してみよう。 14. 自然の中での擬態するものとは 見えるようで, 見えない視点を意識的に使ってみよう。 15. 自然を感じて遊ぶとはいかなることか 授業全体の振り返りと社会的事象を踏まえながら自然との共生を考える。 				
<p>【テキスト】 適時資料を配布します。</p>				
<p>【参考図書】 ネイチャーゲームリーダーハンドブック理論編 日本シェアリングネイチャー協会発刊</p>				

【成績評価の方法】下記の成績を基準に評価する。

・**授業への取り組みの姿勢／態度(20%)**

意欲的な受講態度, 実習・討議等への参加度等によって評価する。

・**小レポート(30%)**

授業毎に振り返りペーパーの内容について評価する。

・**定期試験(50%)**

最終的な理解度を評価する。

対面授業			14005	
授業科目名: 英語プレゼンテーション			担当教員氏名: 藤代 昇文	
English Presentation				
3~4年次	2単位	前期	1コマ	
<p>【授業の目的】 授業概要: 事前に配布された新聞記事やニュースを読んだり聞いたりして的確に理解する力の養成に努め、学んだり経験したことに基づいて、その情報や自分の考え方をまとめて発表する演習を行う。また、発表された情報や提案を聞いたり読んだりして、自己の立場に基づいて質問したり意見を述べたりする活動を行う。</p> <p>【到達目標】 英語を通して、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながらまとまりのある情報や提案を分かり易く伝える能力を養う。また、英語を通して、発表された情報や提案を的確に理解し、自己の立場に基づいて質問したり意見を述べたりする能力を養う。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈思考・問題解決能力〉〈技能〉の修得に貢献する。</p> <p>【授業内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 意味を知る: 英語によるプレゼンテーションとは 「プレゼンテーション」の意味等の基礎知識について解説。 プレゼンテーション5つの目的分類、プレゼンテーションとスピーチの違いなどについて解説する。 2. 対象と目的を意識する: プレゼンテーションは何のために誰のために 目的を明確にし、必要な事前分析を行うことの必要性について解説する。 3. 大切な要素を知る: プレゼンテーション成功のための3要素 「伝える方法」「伝える内容」「伝える順序」について解説する。 プレゼンテーション演習準備(グループ): 発明品 4. 方法を考える: 伝えたいことをいかに伝えるか 伝達手段と伝える技術(言語と非言語による伝達, 表現方法), 違いを生み出すデリバリー技術について解説する。 プレゼンテーション演習準備(グループ): 発明品 5. 内容を定める: 何を伝えるかを吟味する テーマに応じてプレゼンテーションの内容を決定する。 グループ・ペアでの議論の仕方: ブレインストーミング・KJ法について解説する。 プレゼンテーション演習準備(グループ): 発明品 6. 実際に英語プレゼンテーションをしてみよう①(グループ発表) 各グループの発明品についてプレゼンテーションを行う。 相互評価及び教師によるコメントにより修正すべき点を確認する。 7. 構成を考える: いかに分かりやすく伝えるか 分かりやすい話の組み立て方(「導入」⇒「本論」⇒「結論」)について解説 プレゼンテーション演習準備(個別): 身近な話題・関心のある事 8. 磨きをかける: 改善のための方法 動画を用いた振り返りとメタ認知について解説。 プレゼンテーション演習準備(個別): 身近な話題・関心のある事 9. 評価する: プレゼンテーション評価の規準 評価者の目で自分のプレゼンテーションを見直すこと, 他人のプレゼンテーションを評価の観点から見る必要性について解説。 プレゼンテーション演習準備(個別): 身近な話題・関心のある事 10. 実際に英語プレゼンテーションをしてみよう②(個人発表1: 前半) 身近な話題・関心のある事について各個人別に全体発表を行う。 発表の様子を動画で振り返り, 相互評価及び教師によるコメントにより修正すべき点を確認する。 11. 実際に英語プレゼンテーションをしてみよう②(個人発表2: 後半) 身近な話題・関心のある事について各個人別に全体発表を行う。 				

発表の様子を動画で振り返り、相互評価及び教師によるコメントにより修正すべき点を確認する。

12. **プレゼンテーションのテーマについて英語でディスカッションしてみよう1**

グループで地元について英語で話し合い、英語でレポートする。

英語のプレゼンテーション動画を真似してみよう

TEDの中から1つ動画を選び真似て発表する練習する。

プレゼンテーション演習準備(個別):社会的な課題について

13. **プレゼンテーションのテーマについて英語でディスカッションしてみよう2**

グループで好きな音楽について英語で話し合い、英語でレポートする。

英語のプレゼンテーション動画を真似してみよう

TEDの中から1つ動画を選び真似て発表する練習する。

プレゼンテーション演習準備(個別):社会的な課題について

14. **実際に英語プレゼンテーションをしてみよう③(個人発表1:前半)**

社会的な課題について各個人別に全体発表を行う。

発表の様子を動画で振り返り、相互評価及び教師によるコメントにより修正すべき点を確認する。

15. **実際に英語プレゼンテーションをしてみよう③(個人発表2:後半)**

社会的な課題について各個人別に全体発表を行う。

発表の様子を動画で振り返り、相互評価及び教師によるコメントにより修正すべき点を確認する。

【テキスト】

書名:英語プレゼンのトリセツ/著者名:藤代昇丈/出版社:日本橋出版

【参考図書】

【成績評価の方法】下記の成績を基準に評価する。

・授業への取り組みの姿勢/態度(30%)

意欲的な受講態度、予習の状況及び授業への貢献度を評価する。

・レポート(30%)

課題のテーマについて適切にまとめてあるかを評価する。課題提出後の授業で、グループワークを通して発表及び相互評価を行い、内容についてコメントし、フィードバックを行う。

・その他(40%)

積極的に自分の考えをプレゼン発表できるかを評価する。

対面授業				14006
授業科目名:現代ビジネス論			担当教員氏名: 佐々木 公之	
Contemporary Business				
3～4年次	2単位	前期	1コマ	
<p>【授業の目的】 授業概要:「ビジネス実務士」資格取得のための必修科目である本講義では、組織におけるビジネス実務の概念について基本的な知識、およびビジネス活動の進め方について学んでいく。また、実社会において必要とされる「社会人基礎力」の習得を図り、その力を発揮し応用するレベルまでスキルアップを目指す。ビジネスの基本知識と現代マーケティング理論を習得しながらキャリア形成を考えていく。</p> <p>【到達目標】 「ビジネス概念」「ビジネスの推進力・能力開発」「ビジネス実務の基本的技術等」を身に付け、ケーススタディー等を通じてビジネスの総合的な知識を高め、論理的思考にて判断できる力を養う。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。</p>				
<p>【授業内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代ビジネスの現状と傾向 2. 現代マーケティング戦略を学ぶ(1) 3. 現代マーケティング戦略を学ぶ(2) 4. 企業の経営戦略(1) 5. 企業の経営戦略(2)実践事例 6. 企業の経営戦略(3)ケーススタディー 7. 企業の経営戦略(4)ケーススタディー 8. 企業の事業戦略(1)サービス・マーケティング 9. 企業の事業戦略(2)実践事例 10. 企業の事業戦略(3)ケーススタディー 11. 企業の事業戦略(4)ケーススタディー 12. 現代ビジネスの分析(1) 13. 現代ビジネスの分析(2) 14. 現代ビジネスの分析(3)ケーススタディー 15. 現代ビジネスの分析(4)ケーススタディー 				
<p>【テキスト】</p>				
<p>【参考図書】</p>				
<p>【成績評価の方法】下記の成績を基準に評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組みの姿勢／態度(30%) 意欲的な授業態度、授業への貢献度を評価する。 ・定期試験(70%) プロジェクトマネジメントを通じて各テーマの主要ポイントを評価する。 				

対面授業				14007
授業科目名:マーケティング論			担当教員氏名: 宋 娘沃	
Marketing				
2～4年次	2単位	前期	1コマ	
<p>【授業の目的】 授業概要:市場では消費者の好みやライフスタイルがますます多様化し、個別化している。マーケティングは単に作った製品を販売するだけではなく、売れる製品をいかにして作るかが求められている。そのためには、消費者のニーズを明確に捉え、それに見合った新製品を開発することが重要な戦略となっている。マーケティングはこうした製品をどのようにターゲット市場に細分化し、宣伝、広告、流通チャネルまでトータルに捉えていくのかが必要不可欠である。本講義では、企業が提供する商品やサービスをどのように消費者に結びつけ購買行動を促進するのか、企業と消費者行動との関係性、いかにしてブランドの構築を行っているのかを考察する。講義では、具体的な企業の事例を取り上げ、今日のマーケティングの考え方や技法を明らかにする。</p> <p>【到達目標】 ・マーケティングに関する基礎知識が修得できる。 ・企業のブランド力や商品やサービスが市場で販売されるまでのプロセスが理解できる。 ・実際の企業のマーケティング戦略を学ぶことによって、実務的な学習能力を培うことができる。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。</p> <p>【授業内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. マーケティングとは マーケティングが登場したのは、19世紀から20世紀初頭のアメリカの大量生産技術や大規模生産技術がさまざまな産業で導入された。 マーケティング登場の歴史的な変遷を学習する。 2. マーケティングミックス マーケティング戦略は市場環境や競争環境といった外部環境を正確に把握することが必要不可欠である。マーケティングの標的市場と市場細分化について理解する。 3. 競争環境・競争要因 企業の外部環境の分析は、市場の競争要因を把握することである。競争構造によって、マーケティング戦略は異なるが、自社の経営資源分析とは何かを学習する。 4. 競争対抗戦略と市場環境 競争対抗戦略の類型は市場環境に適合するリーダー企業のマーケティング戦略がどのように構築されているのか。 5. 市場環境と消費者行動の捉え方 市場における消費者の購買意思決定過程を理解する。 6. 顧客志向のマーケティング 市場で販売されている商品やサービスは顧客志向に合致しているのか、売手としての企業側の利潤だけに求められているのか。買い手と売り手との競争要因を学習する。 7. 製品ライフサイクル 市場で販売されている商品やサービスは大半製品寿命によって変化する。 市場での商品のライフサイクルはどのように変化していくのか。 8. 流通環境と中間業者の役割 商品が市場で販売されるまで、どのような流通経路をたどっていくのか。 中間業者の流通機能、流通系列化、取引の効率化について学習する。 9. 消費者行動とマーケティング 今日のインターネット時代における消費者行動はどのように変化しているのか。 10. 市場環境と購買意思決定の変容 消費者行動の意思決定過程や代替案評価過程はどのようなものを理解する。 11. ブランド構築の基礎 なぜブランドを構築するのか。何をブランド化するのか。顧客接点型商品ブランドとは何か。 12. マーケティング・レベルのブランド戦略 フォーカス顧客戦略とブランド価値のプロポジション、差別化ポイント 				

13. **価格設定のマーケティング**

価格規定要因としての費用, 価格規定要因としての需要, 競合品・代替品の中での価格設定はどのように構築されるのか。

14. **プロモーション政策**

プロモーション活動の役割, プロモーションの手段, プロモーションミックス

15. **デジタル時代のマーケティング戦略**

情報過剰と消費者, 社会とユーザーからみたブランドの変化, 企業側からみたブランドの変化

【テキスト】

書名: 入門・マーケティング戦略 / 著者名: 池尾恭一 / 出版社: 有斐閣

【参考図書】

書名: 1からのマーケティング / 著者名: 石井淳蔵・廣田章光編 / 出版社: 中央経済社

書名: マーケティング・コンセプト / 著者名: フィリップ・コトラー著 恩藏直人監訳 大川修二訳 / 出版社: 東洋経済新報社

書名: ベーシック・マーケティング / 著者名: 日本マーケティング協会監修 恩藏直人・三浦俊彦・芳賀康浩・坂下玄哲編 / 出版社: 同文館出版

書名: ブランド戦略 ケースブック 2.0 / 著者名: 田中洋 / 出版社: 同文館出版

【成績評価の方法】下記の成績を基準に評価する。

・**授業への取り組みの姿勢／態度 (20%)**

予習・復習の状況, 講義への意欲や質問, 課題提出について評価する。

・**レポート (30%)**

企業の商品や市場での動向を調べ, マーケティングの実体例をまとめる。提出されたレポートは, 内容のコメントを加えて返却する。

・**小テスト (50%)**

キーワードの理解度, 講義全体の理解度を評価する。

対面授業				14008
授業科目名:カウニング論			担当教員氏名: 平尾 太亮	
Counseling				
3～4年次	2単位	後期	1コマ	
<p>【授業の目的】 授業概要:カウニングに関わる基礎理論を獲得するとともに、ロールプレイや事例検討を通して、カウニングに関する技術の修得を目的とする。</p> <p>【到達目標】 ・カウニングの知識について、基礎的な知識を獲得する。 ・カウニングの基礎的な技法について、実際の場面で使うことができる。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈態度〉の修得に貢献する。</p> <p>【授業内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. カウニングとは? 2. カウニングの理論 1:精神分析療法 精神分析的な考え方について学ぶ。 3. カウニングの理論 2:認知行動療法, 論理療法 行動論的な考え方について学ぶ。 4. カウニングの理論 3:自己理論 自己理論的な考え方について学ぶ。 5. カウニング・マインドについて 専門職におけるカウニング・マインドとは何か?について考え、獲得できるようになる。 6. カウニングのすすめ方 1:インテーク面接 インテーク面接について学ぶ、進め方の実際を知る。 7. カウニングのすすめ方 2:アセスメント 1 アセスメントについて学ぶ。 8. カウニングのすすめ方 3:アセスメント 2 様々なアセスメント方法について学び、体験する。 9. カウニングのすすめ方 4:介入と終結 介入と集結方法について学ぶ。 10. カウニングにおける具体的なテクニック 1:相づち, 反射, 開いた質問, 閉じた質問 実際のカウニングを通して、具体的なテクニックについて学びを深める。 11. カウニングにおける具体的なテクニック 2:要約, 明確化 具体的なテクニックについて学びを深める。 12. 事例検討1 様々な事例を通して、カウニングの実際を知る。 13. 事例検討2 様々な事例を通して、カウニングの実際を知る。 14. ロールプレイ 実際にカウニングを体験してみる。 15. まとめ 				
【テキスト】				
【参考図書】				
<p>【成績評価の方法】下記の成績を基準に評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組みの姿勢／態度(20%) 授業に積極的に参加し、意見や疑問を表現することができる。 ・レポート(30%) 全講義終了後、カウニングにおける知識と視点をふまえて総合的に論じることができる。 次回授業時にフィードバックを行う。 ・その他(50%) 事例検討(30%)やロールプレイ(20%)に積極的に参加し、意見を出すことができる。 				

対面授業			14009		
授業科目名:現代環境論			担当教員氏名: 小築 康弘		
Introduction to Contemporary Environmental Issues					
1～4年次	2単位	後期	1コマ		
<p>【授業の目的】 授業概要:本授業は、現代社会における環境問題を、私たちの身近な生活や社会との関わりの中で理解することを目的とする。環境問題を、自然環境の悪化や自然保護の問題としてだけ捉えるのではなく、日常の暮らし方、消費行動、社会の仕組みと密接に関係する課題として考えることを重視する。環境問題は自然だけの問題ではなく、人間の生活や経済活動、社会の成り立ちと深く結びついていることを踏まえ、個々の問題を断片的に覚えるのではなく、全体像を捉えるための基礎的な考え方を身につけることを目指す。</p> <p>【到達目標】 ・現代における環境問題について、基礎的な内容と全体像を理解している。 ・環境問題を自分自身の生活や社会の在り方と結びつけて考え、自分の言葉で説明できる。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。</p> <p>【授業内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション:環境問題のイロハ 環境問題とは何を指すのかを整理し、自然保護との違いや、なぜ現代社会で重要な課題となっているのかを概観する。 2. 人間と環境の関係の変化 人間の生活様式が歴史的にどのように変化し、それに伴って環境への影響がどのように拡大してきたのかを理解する。 3. 人口増加と環境問題 世界人口の増加が、食料・水・資源などの環境問題とどのように結びついているのかを考える。 4. 資源は無限ではない:資源問題の基礎 私たちが利用している資源の種類と特徴を整理し、資源の有限性について理解する。 5. エネルギー問題の基本構造 化石燃料、原子力、再生可能エネルギーの特徴を比較し、エネルギー選択の難しさを学ぶ。 6. 地球温暖化①:何が起きているのか 地球温暖化の基本的な仕組みを押さえ、なぜ問題視されているのかを理解する。 7. 地球温暖化②:社会と生活への影響 気候変動が自然災害や人々の生活、将来世代に与える影響について考察する。 8. ごみ問題とリサイクルの現実 ごみがどのように処理されているのかを知り、リサイクルの役割と限界を理解する。 9. プラスチック問題を考える プラスチックの利便性と環境への影響を整理し、私たちの使い方を見直す。 10. 生物多様性と環境 生物多様性の意味を理解し、生き物の減少が人間社会に与える影響を考える。 11. 環境問題と経済・ビジネス 環境と経済の関係を整理し、環境に配慮したビジネスや消費行動について考える。 12. 環境問題と国際社会 環境問題が国境を越える課題であることを理解し、国際協力の難しさを学ぶ。 13. 子どもと環境:次世代への視点 子どもの生活環境や環境教育の重要性を通して、次世代に何を伝えるべきかを考える。 14. 私たちにできる環境への関わり方 個人の行動が持つ意味を整理し、無理なく続けられる環境配慮のあり方を考察する。 15. まとめ:現代環境論を振り返る 授業全体を振り返り、環境問題を多面的に捉える視点と、考え続ける姿勢を確認する。 <p>【テキスト】</p>					

【参考図書】

【成績評価の方法】下記の成績を基準に評価する。

・**小テスト(30%)**

各回の授業の最後に実施し、当日の授業内容の理解度を確認する。基本的な用語や概念、授業で扱った内容を中心とする。テストは採点し次第、速やかに返却する。

・**レポート(14%)**

次回授業のテーマに関連して、事前のイメージや考え、疑問点などを記述する。調査や専門的知識の正確さよりも、自分の言葉で考えを表現しているかを重視する。レポートは採点し次第、速やかに返却する。

・**期末試験(56%)**

授業全体を通して扱った内容について、環境問題をどのように理解しているかを確認する。単なる暗記ではなく、授業で学んだ内容を踏まえて説明できるかを評価する。

対面授業			14010		
授業科目名: 英語科教育法			担当教員氏名: 西田 寛子		
Teaching Methods for Elementary School English					
2～4年次	2単位	後期	1コマ		
<p>【授業の目的】 授業概要: 小学校英語の授業実践に必要な知識・技術を習得するために、事前にテキストを熟読してそのポイントについてまとめ、授業ではそれを指導に生かす具体的な方法についてディスカッションを通して考案する。また、授業づくりに必要な基本的な指導技術を身に付けるために、実際の授業観察や分析を行ったり、指導教員による授業を児童の立場で体験したりする。さらに、教師の立場で模擬授業を行い、省察・指導の改善を行うことにより、理論と実践の往還・統合を図る。</p> <p>【到達目標】 ・小学校外国語教育に係る背景知識や主教材、小・中・高等学校の外国語教育における小学校の役割、多様な指導環境について理解する。 ・児童期の第二言語習得の特徴を理解し、模擬授業における指導に生かすことができる。 ・実践に必要な基本的な指導技術と実際の授業づくりに必要な知識・技術を身に付ける。 本科目は、ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。</p> <p>【授業内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> ・イントロダクション: 講座の目標・内容・評価方法を確認する。 ・小学校外国語教育導入の背景・変遷、外国語活動・外国語科、小・中・高等学校の外国語科の目標、内容について理解する。 ・小・中・高等学校の連携と小学校の役割について理解する。 (授業ビデオ視聴とグループディスカッション) ・主教材の趣旨、構成、特徴について理解する。 (グループディスカッションで互いの気づきを共有する。) ・様々な指導環境に柔軟に対応するため、児童や学校の多様性について、基礎的な事柄を理解する。 ・言語使用を通して言語を習得することについて、授業体験を通して理解する。 ・音声によるインプットの内容の類推から理解への進むプロセスを経ることを、授業体験を通して理解する。 (上記の理解を踏まえた具体的な指導法について、ディスカッションを通して考案し、模擬授業に生かす。) ・児童の発達段階を踏まえた音声によるインプットの在り方について理解する。 ・コミュニケーションの目的や場面、状況に応じて意味のあるやり取りを行う重要性について、授業体験を通して理解する。 (上記の理解を踏まえた具体的な指導法について、ディスカッションを通して考案し、模擬授業に生かす。) ・受信から発信、音声から文字へ進むプロセスを理解する。 ・国語教育との連携等による言葉の面白さや豊かさへの気づきについて理解する。 ・文字言語との出合わせ方、読む活動・書く活動への導き方について理解する。 (上記の理解を踏まえた具体的な指導法について、ディスカッションを通して考案し、模擬授業に生かす。) ・児童の発話につながるよう、効果的に英語で語りかける。 ・児童の英語での発話を引き出し、児童とのやり取りを進める。 (授業場面を設定し、マイクロティーチングで上記の活動を行う。Classroom English, Small Talk, Teacher Talk の練習をする。) ・ALT/JTE 等とのチームティーチングによる指導の在り方について授業体験の中で理解する。 (授業場面を設定し、マイクロティーチングで上記の活動を行う。Classroom English, Small Talk, Teacher Talk の練習をする。) ・ICT 等の効果的な活用の仕方について理解し、活用法を考案する。また、デジタル教科書を指導に活用する。 (上記の理解を踏まえた具体的な指導法について、ディスカッションを通して考案し、模擬授業に生かす。) 					

9. ・学習状況の評価(パフォーマンス評価や学習到達目標の活用を含む)について理解する。
(上記の理解を踏まえた具体的な指導法について、ディスカッションを通して考案し、
模擬授業に生かす。)
10. ・小学校での授業参観・分析や児童支援を通して、自身の授業構想・教材作成につなげる。
(小学校での学外授業は、日程変更となる場合があるが、その際は事前に連絡をする。)
11. ・題材選定、教材研究の仕方について理解する。
・模擬授業に向けて、適切に題材選定、教材研究を行う。
12. ・学習到達目標に基づいた指導計画(年間指導計画、単元計画、学習指導案、短時間学習等の
授業時間の設定を含めたカリキュラム・マネジメント等)について理解する。
・模擬授業に向けた学習指導案を立案する。
13. ・マイクロティーチング①:これまでの授業における知識・理解に基づき、模擬授業、省察、指導の
改善を行う。
14. ・マイクロティーチング②:これまでの授業における知識・理解に基づき、模擬授業、省察、指導の
改善を行う。
15. ・講座全体のまとめ、省察を行い、今後の指導の改善に向けて協議する。

【テキスト】

- ・書名:小学校英語はじめる教科書(改訂第3版)外国語科・外国語活動指導者養成のために-コア・
カリキュラムに沿って/著者名:小川隆夫・東仁美/出版社:mpi
- ・書名:Crown Jr. 5/著者名:酒井英樹 ほか/出版社:三省堂
- ・書名:Crown Jr. 6/著者名:酒井英樹 ほか/出版社:三省堂
- ・書名:Let's Try!1/著者名:文部科学省/出版社:東京書籍
- ・書名:Let's Try!2/著者名:文部科学省/出版社:東京書籍
- ・小学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 外国語活動・外国語編/編著者名:文部科学省/
出版社:開隆堂出版

【成績評価の方法】下記の成績を基準に評価する。

・授業への取り組みの姿勢/態度(40%)

授業中のディスカッション、模擬授業実践・省察・指導の改善における意欲的な態度ならびに
自律的な学びの姿勢(予習・復習)を評価する。<態度>

・レポート(40%)

理論と実践の往還を図りながら考えたことの記述内容や、指導計画(学習指導案等)、指導実践の
省察を評価する。<知識・理解>

* レポートについてはコメントを記入して返却するとともに、良い例はクラス全体に紹介する。

・授業実践の技能(20%)

授業づくり、模擬授業実践における技能を評価する。<技能>

対面授業			14011		
授業科目名:ブランド戦略論			担当教員氏名: 宋 娘沃		
Brand Starategy					
3~4年次	2単位	後期	1コマ		
<p>【授業の目的】 授業概要:わたしたちの生活において、ブランドへの関心が年々高まったのは1980年代から1990年代の初めにかけてである。今日ブランドへの関心や競争はますます高くなり、海外のジャーナルや日本国内にもブランドに関するブランド戦略論やブランド・マネジメントの論評が多くなってきている。ブランドはどのように創られ、それを発展させ持続していくのかが最大限の関心ごとである。ブランドは今日、プライベート・ブランド、地域ブランド、グローバル・ブランドなど異なった領域においてブランドの重要性がより一層認識されるようになってきている。本講義では、前半でブランドの基礎理論やブランドの機能について解説し、後半ではブランド戦略を駆使し、確実したブランド構築を成し遂げている企業の事例を用いて学習する。</p> <p>【到達目標】 ・ブランド戦略に関する基礎理論や歴史が理解できる。 ・企業はどのようにブランド構築に取り組んで、それを持続させているのかが理解できる。 ・事例研究を通じて消費者の観点から価値創出やブランド力行使が理解できるようになる。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。</p> <p>【授業内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ブランドの定義 ブランドの語源、商標、ブランドの機能、ブランドの効果と影響力、ブランド・エクイティ 2. ブランドと交換 交換パラダイム、交換価値、信頼財、探索財、等価交換、差異からの価値創出、競争的差異 3. イノベーションとブランド 包装革命とブランド、顧客の創造、新しいパターンの創出、持続的交換関係、ブランド使用 4. ブランド史の構造 ブランドの歴史的構造、近代ブランド、アイデンティティの成立、消費財ブランド、ブランド・マネジメント 5. 統合ブランド戦略の基礎 ブランド戦略、ブランド構築、潜在的可能性、ノンブランド市場、戦略マトリクス 6. 経営レベルのブランド戦略 ブランド・テリトリー、6C分析、経営資源の意思決定、ブランド・アーキテクチャー、ブランド配置 7. マーケティングレベルのブランド戦略 フォーカス顧客、価値の創造、セグメンテーションの困難、ポジショニング 8. 企業ブランド戦略とブランド拡張 企業ブランド、マネジメントの視点、ブランド拡張、動機付け、カテゴリー、パーソナリティ 9. ブランドM&Aとライセンスング ブランドの買収、グローバル企業の買収、ブランド買収の効果 10. グローバルブランド戦略 市場と自社の課題、自覚共通化、ブランド保有、マネジメントの課題解決 11. ブランド経験とブランド信頼 ブランド経験価値、ピーク・エンド法則、信頼概念、意図に対する信頼、ブランド意図 12. 食品・飲料ブランドの事例 新ビジネスモデル、ブランド活性化、成熟ブランドの再活性化、市場の転機、競合と自社分析 13. 耐久消費財のブランド戦略(ダイソンとティファールの事例) ブランド革新、サイクロン技術、デザインの力、人口減少と高齢化、エコロジー志向 14. ツーリズム・ブランド(ハウステンボスの事例) エンターテインメントブランドの再構築、オンリーワン思考、市場対応、失敗に学ぶ、顧客ニーズ 15. BtoBと企業ブランド 成熟産業、事業革新、事業ドメイン、戦略単位の源泉、酸素繊維、市場の需要 					

【テキスト】

【参考図書】

書名：ブランド戦略論／著者名：田中洋／出版社：有斐閣

書名：ベーシック・マーケティング／著者名：恩藏直人編著／出版社：同文館出版

【成績評価の方法】下記の成績を基準に評価する。

・授業への取り組みの姿勢／態度，課題作成(30%)

予習や復習の状況，講義への意欲や質問，課題提出などを評価する

・レポート(30%)

提出されたレポートは，きちんと書かれていたかを検討し，内容のコメントを加えて返却する。

・小テスト(40%)

キーワードの理解度，授業全体の理解度を評価する。

対面授業			14012	
授業科目名: 観光英語B			担当教員氏名: 佐々木 真帆美	
Tourism English B				
2～4年次	2単位	後期	1コマ	
<p>【授業の目的】 授業概要: この講義では観光・ホスピタリティの現場で実際に使用される英語表現を学び, 訪日外国人旅行者に対して適切かつ柔軟に対応できる実践的な英語運用能力を養うことを目的とする。教科書に基づいた会話練習・リスニング・ロールプレイの他に, 日本の観光地や名産品について英語で紹介をする発表を行う。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 観光・接客場面における基本的な英語表現を理解し使用できる。 2. 交通, 宿泊, 飲食, 観光案内などの場面で適切な英語対応ができる。 3. 日本の文化や習慣を簡潔な英語で説明できる。 4. 日本の観光地・名産品を簡潔な英語で紹介することができる。 <p>なお, 本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち, <知識・理解> <技能>の修得に貢献する。</p> <p>【授業内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 観光英語とホスピタリティ 授業全体の目的・進め方・評価方法を説明する。観光英語とホスピタリティの基本的な考え方について理解する。 2. Unit 1 Transportation 公共交通機関を利用する観光客に対する案内表現を学ぶ。時刻, 料金, 乗り換え, 交通系 IC カードなどの説明練習を行う。 3. Unit 2 At a Check-in Counter (hotel) ホテルのチェックイン場面を想定し, 予約確認や基本的な接客英語表現を学ぶ。ロールプレイを通じて実践力を養う。 4. Unit 3 Facilities and Services (hotel) ホテルや施設内の設備・サービスについて説明する英語表現を学ぶ。利用方法や注意事項の伝え方を練習する。 5. Unit 4 Giving Directions 道案内に必要な基本表現を学ぶ。地図やランドマークを用いて分かりやすく説明する練習を行う。 6. Unit 5 Recommending a Trip 観光客の希望に応じて旅行先や観光プランを提案する表現を学ぶ。おすすめ理由を英語で説明する力を養う。 7. 中間発表 これまで学習した表現を参考にしながら, テーマに沿った国内の観光地を1つ選び英語で紹介する。発表後にフィードバックを行う。 8. Unit 6 Dining in Japan ① 相手の要望を理解し, 日本の飲食店や料理を提案する表現を学ぶ。食事制限や好みを尋ねる表現を学び, 異文化に配慮した対応力を身につける。 9. Unit 7 Dining in Japan ② 日本食を英語で説明する英語表現を学ぶ。海外の料理と比較して説明ができるように, 日本料理の特徴や文化的背景を英語で説明できるようにする。 10. Unit 8 Arranging a Tour ツアーの手配やスケジュール説明に必要な英語表現を学ぶ。集合時間や注意事項の伝え方を練習する。 11. Unit 9 Staying at a Ryokan 旅館での滞在を想定し, 日本特有の宿泊文化を説明する英語表現を学ぶ。温泉や和室のルールを英語で説明する。 12. Unit 10 Culture Expression in Japan 日本の文化や生活習慣について英語で説明する表現を学ぶ。観光客に向けた分かりやすい説明を意識する。 				

13. Unit 11 Culture Expression in Japan ②

日本の年中行事や祭, 伝統芸能について英語で説明する表現を学ぶ。文化的背景や意味を踏まえ, 外国人観光客に分かりやすく伝えられるようにする。

14. Unit 12 Japanese Souvenirs

日本のお土産とショッピングの案内の仕方を学ぶ。商品の特徴や意味を英語で説明し, 適切なお土産を提案できるようにする。

15. 期末発表

これまでに学習した表現を用いて, テーマに沿った国内の料理・名産品を1つ選び, 英語で紹介をする。発表後にフィードバックを行う。

【テキスト】

書名: 現場から学ぶ観光英語の実践レッスン / 著者名: 上杉恵美・阿部佳・渭東史江ほか / 出版社: 金星堂

【参考図書】

【成績評価の方法】下記の成績を基準に評価する。

・授業への取り組みの姿勢／態度(20%)

意欲的な受講態度, 発表・討議への参加, 予・復習の状況によって評価する。

・小テスト(20%)

毎回授業開始時に前回の授業内容に関する小テストを行う。観光英語に関する理解度を評価する。

・定期試験(30%)

授業全体で学んだ交通, 宿泊, 飲食, 文化紹介などの観光英語について理解度を確認する。暗記中心の試験ではなく, 具体的な場面設定に対して, 授業で学んだ内容を踏まえて英語で説明できるかを評価する。

・その他(30%)

課題のテーマについて調べ適切にまとめ, 自分の考えを英語で具体的に発表できていること。発表のフィードバックは授業時に全体に対して行う。

大学コンソーシアム岡山 単位互換履修科目履修願

所属大学の 受付番号	
受入大学の 受付番号	

* 学生は太枠内のみ記入

中国学園大学長 殿

提出日	令和	年	月	日
ふりがな 氏 名				印



この度、貴学において単位互換履修生として下記の科目を履修したいので、許可をお願いいたします。

所属大学等					
学部・学科・学年	学部 年			学科	
学生番号		性別	生年 月日	西暦 年	
		男・女		昭和・平成	年 月 日
現住所	〒 - Tel () -				
メールアドレス					

* 履修受付締切日:前期:4月2日(木)まで 後期:9月16日(水)まで

* 区分(教養/専門):開講大学の区分を示しています。受講生の所属大学における区分については、申込みの際に所属大学で確認してください。

No	授 業 科 目	区分	担当教員	単 位	開講期	配当 学年	備 考	曜日・時限	履修 希望	評価
対面授業科目										
14001	フードコーディネート論	専門	山崎 真未	2	前期	1~4	定員 10名	木 14:50~16:20		
14002	食生活論	専門	藤原 三保子	2	前期	1~4	定員 10名	金 11:00~12:30		
14003	心理学	教養	國田 祥子	2	前期	1~4	定員 10名	金 9:20~10:50		
14004	自然科学概論	教養	清水 憲志	2	前期	1~4	定員 10名	月 11:00~12:30		
14005	英語プレゼンテーション	専門	藤代 昇丈	2	前期	3~4	定員 10名	水 9:20~10:50		
14006	現代ビジネス論	専門	佐々木 公之	2	前期	3~4	定員 10名	水 11:00~12:30		
14007	マーケティング論	専門	宋 娘沃	2	前期	2~4	定員 10名	木 13:10~14:40		
14008	カウンセリング論	専門	平尾 太亮	2	後期	3~4	定員 10名	水 9:20~10:50		
14009	現代環境論	教養	小築 康弘	2	後期	1~4	定員 10名	火 13:10~14:40		
14010	英語科教育法	専門	西田 寛子	2	後期	2~4	定員 10名	火 13:10~14:40		
14011	ブランド戦略論	専門	宋 娘沃	2	後期	3~4	定員 10名	木 11:00~12:30		
14012	観光英語 B	専門	佐々木 真帆美	2	後期	2~4	定員 10名	火 11:00~12:30		

写真提出枚数 (カラー, 4 cm × 3 cm, 裏面に大学名・氏名を記入する)	単位互換科目 履修願用(本紙)	身分証明書用	学生原簿用	計
	1 枚	1 枚	0 枚	2 枚

